

しんかいちにちょうめしょうてんがい

新開地二丁目商店街

（新開地二丁目商店街振興組合）

兵庫県神戸市兵庫区新開地

演芸の力と自治体や地元電鉄との連携で新たな客層を誘致



取組の背景

地域住民の潜在的ニーズを見据えたまちづくり

2016年度に実施したまちづくりアンケート調査の結果、新開地への来街目的の第1位が「催事・まつり・イベント」で39.5%、第2位が「新開地音楽祭」で34.9%と大部分を占め、催事やイベントなどを実施することによる集客効果が表れていた。また、来街者が文化・娯楽関連施設利用時に、近くの店で飲食や買物をしているとの回答も半数を占め、「観て」、「食べて」、「買物をする」という同商店街の機能が発揮されている。しかし、催事やイベントなどがないときの来街者の定着には至っておらず、商店街の通行量も横ばい程度にとど

取組の内容

演芸場「喜楽館」を核に 来街者定着の施策を実施

新開地二丁目商店街に面し、路地・横丁の風情が残るエリアに位置する「喜楽館」では、昼の落語公演を軸に、夜は「JAZZの街神戸」としてジャズなどの音楽ライブや講談、その他多彩なジャンルの公演を開催している。四国から団体ツアー客が来街するなど、遠方からの来街者の誘致に成功した。また、地域住民の利用も可能となっており、同窓会会場として利用されるなど地域のコミュニティスペースとしても活用されている。

そこで「喜楽館」の利用者に施設利用前後に食事や買物を楽しんでもらうとともに、来街者の定着を図るため以下の施策を実施した。

- ① 家族・グループや女性の利用に対応する店づくりや営業時間の変更
- ② アーケード内外に文化・芸能のまちのイメージの装飾やサインの設置による景観整備
- ③ 店舗や歴史資源を案内するマップの作成
- ④ 店舗の活性化と空き店舗へのテナント誘致
- ⑤ 神戸電鉄とのタイアップによる、電車の乗車券と「喜

まつている。

近年、同商店街周辺には定住型マンションが急増し、ファミリー世帯が増加している。しかし、新たな周辺住民を商店街への来街者としてとりこめていない。

地域住民の潜在的ニーズとして、落語鑑賞は「好きでよく行く」、「一度は行ったことがある」が半数を占め、「行ってみたいが機会がない」といった潜在需要層も含めると約8割となり、落語に対する関心の高さがある。そこで商店街空地を活用し、席数208席の演芸場「喜楽館」を開設し、「喜楽館」を中心として同商店街の認知度の向上および恒常的な来街による活性化を目標に商店街づくりを行うこととなった。

楽館」の鑑賞券がセットになった商品の販売

⑥ 団体ツアー客の受入体制の整備

また、観光客誘致のため、兵庫県・神戸市と連携し「喜楽館」を神戸市の観光名所の一つとして、観光公式ウェブサイトに掲載してPRを実施している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「喜楽館」の入場者数を3分の1程度に制限して継続的に演芸を開催した。既存の新開地ファンには元気で活性化している商店街情報を発信するとともに、潜在的な新開地ファンには認知してもらうための情報発信が重要と考え、取り組んでいる。



商店街のキーコンテンツである演芸場「喜楽館」

取組の成果

話題性を活かした取組で
にぎわいのある商店街へ

「喜楽館」を開設した2018年度に通行量を調査した結果、開設前と比較し、約4%増加している。開業数も2018年度で5店舗となっており、通行量・開業数ともに目標値以上の成果となった。話題性もあり多くのメディアに取りあげられ、地域内外の日本人が来街して商店街のにぎわいを生んだ。

しかし、2019年度以降は話題性が薄れ来街者が減少。また、新型コロナウイルスの影響でツアー客の来

街も増えていない。今後は落語ファン、潜在的落語ファンの集客増加に向けた取組を強化していく。



伝統芸能などを活かしたイベントを開催

実施体制

商店街の実施体制として、理事長を中心に商店街内の各店舗とコミュニケーションを密に行うことで活発な商店街運営を可能とし、業態改革のための勉強会、案内マップの作成、演芸場と連携したイベントの開催などの取組を行っている。

同商店街は近隣商店街・町会とともに「新開地周辺地区まちづくり協議会」を設立し、神戸市と協働により、かつての芸能文化の機能を現代的に再生するアートビレッジ構想を作成し、新開地地域の活性化活動を行っている。また、「特定非営利活動法人新開地まちづくりNPO」を設立し、「喜楽館」の運営や地域の魅力情報の発信を行うとともに、地域のファン登録制度を実施している。

キーパーソンからのコメント

定席「喜楽館」を活かし、伝統芸能や楽しいイベントでお客様をお迎えします

当商店街では2017年度の地域・まちなか商業活性化支援事業を活用し、「東の浅草、西の新開地」と称されていた強みを生かして演芸場「喜楽館」を開設いたしました。「喜楽館」という受け皿を開設したことで、桂文枝さんなど上方落語家の方々が公演し、多くの落語ファンにお越しいただいております。

また、より多くの方に神戸唯一の上方落語の定席「喜楽館」にお越しいただ

けるよう、神戸電鉄と連携して、公演入場券と往復切符のお得なセットを販売する取組も実施しております。

今後は新型コロナウイルス感染防止対策を万全に行いながら、「喜楽館」を中心としたさまざまなイベントを開催することで、さらなる商店街の活性化をめざしていきたいと思っております。



新開地二丁目商店街振興組合
理事長 細川能嗣

商店街の概要

新開地はかつて“東の浅草、西の新開地”と称され、同商店街にも西の帝国劇場とよばれた聚楽館がある。家族連れが楽しめる繁華街であり、大衆娯楽と値頃感のある飲食店が主体。“観光地の神戸”と一線を画す、下町情緒ある趣から「神戸のB面」とも呼ばれ親しまれていた。しかし、市役所の移転、娯楽産業の変化により劇場の閉鎖が相次ぎ、来客数が減少した。1999年に設立した「特定非営利活動法人新開地まちづくりNPO」の独自イベントや2017年に開設した演芸場「喜楽館」をキーコンテンツとして新たな客層の誘致を行っている。

所在地 兵庫県神戸市兵庫区新開地
人口 約11万人(神戸市兵庫区)
電話 078-576-0308
FAX 078-576-2668

URL なし
会員数 41名
店舗数 41店舗(小売業3店、飲食業24店、
サービス業7店、不動産業2店、その他5店)

商店街の類型 単独型
主な客層 高齢者、
家族連れ(親子)
/70歳代以上、60歳代